

ふちゅう歴史散歩

Vol.107

備後国府跡の出土品

陶硯③

甕転用硯



硯面に見える線



硯に転用される甕
抱えて持つのも一苦勞の大きさです。このような甕の破片が、甕転用硯になりました。



甕転用硯



古くから、筆を使って字を書くときには硯を使いますが、備後国府跡の発掘調査でも硯が多く出土しています。これらの硯の中には、もともと硯としては作られていない、食器を転用した転用硯（杯蓋硯）や、水や酒、穀物を貯蔵する大型の甕の破片を転用した甕転用硯があります。甕転用硯は、甕の胴部の破片を楕円や四角に形を整えて作ります。大きさは、大体手の平に乗せられるものが多いです。硯面は、甕の内面側です。硯面に、平行線や同心円状の線が見えることがあります。これは模様ではなく、甕を作るときに使った工具の痕です。

甕転用硯か、甕の破片かを判断するポイントは、どこか分かりますか。それは、楕円や四角に整えられた形や表面の滑らかな手触りや墨の痕です。よく使われた甕転用硯の表面は、滑らかで指が滑るような感触がして、大事に使われていたことが分かります。

—市民レポーターが府中の魅力を投稿します—

ふちゅう Sai 発見!

高校生編 その64



投稿者 (文と写真)

上下高校1年
小川史緒さん

「成人式」の司会を担当して

私は、今年、府中市成人式の第2部の大抽選会の司会進行役を務めました。第1部で成人を迎える先輩方の誓いの言葉を聞き、親への感謝や自分の将来など言葉の重みを感じ取ることができました。それと同時に、緊張していく自分を感じ始めていました。第2部の我龍の太鼓演奏が始まる時には、足が震え落ち着かなくなっていました。

演奏が終わり、いよいよ大抽選会の始まりです。マイクを持って前を向いたとき、知っている顔を見つけ少し気持ちも落ち着き、しっかり声も出てとてもスムーズな出だしとなりました。しかし、

台本と違う動きが多く、リハーサル通りには進まず困惑する場面もありました。何とかアドリブを入れながら、会を進めていきました。とにかくそのときは夢中でした。

私は、この体験を通して、司会の大変さや人とのコミュニケーションの難しさなど、多くのことを学ぶことができました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



府中市RCCラジオ番組「府中に夢中！」

毎週月曜日16:30~16:45 (そのうちの5分間) RCCラジオ (1530KHz)

放送日	放送内容
3月2日(月)	企業・起業紹介「上下画廊」&天領上下ひなまつり
3月9日(月)	備後府中焼き店舗紹介「平の家」
3月16日(月)	子どもの作品・学校紹介「府中学園後期課程」

ラジオでも聴ける!

公式SNS
facebook



スマホアプリ
radiko (ラジオ)



府中市メール配信
サービス

